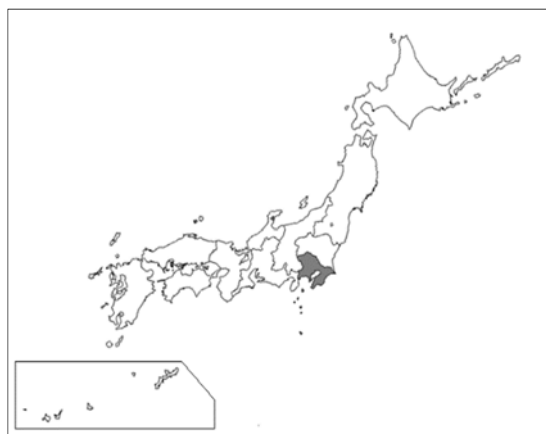


(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる。なお、ヒアリングによれば、足下の感染者数増加による下振れ懸念が一部の業種で強まっている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直している。なお、ヒアリングによれば、足下における感染者数増加による下振れ懸念が一部の業種で強まっている。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（ は上方に変更、 は下方に変更）。

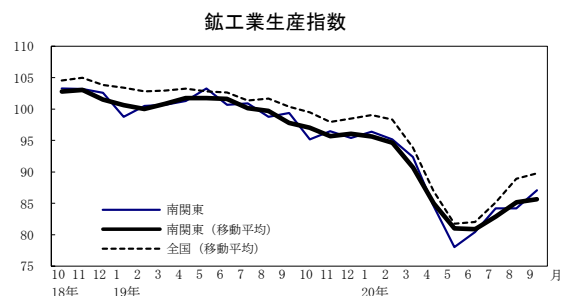
前回からの主要変更点

	前回（令和2年9月）	今回（令和2年12月）	
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる。なお、ヒアリングによれば、足下の感染者数増加による下振れ懸念が一部の業種で強まっている	→
鉱工業生産	一部に持ち直しの動きがみられる	持ち直している	↑
個人消費	このところ持ち直している	持ち直している。なお、ヒアリングによれば、足下における感染者数増加による下振れ懸念が一部の業種で強まっている	→
雇用情勢	感染症の影響により、弱い動きとなっている	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	↑

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直している。

7－9月期の鉱工業生産は、「輸送機械」が増加したこと、「石油・石炭製品、化学、プラ製品」が増加したこと等により、前期比5.1%増となった。



- (備考) 1. 2015年＝100、季節調整値。南関東の最新月は速報値。
 2. 全国及び南関東の太線は中心3か月移動平均。
 直近月は2か月平均。
 3. 南関東は内閣府にて算出。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4－6 月期	7－9 月期	7月	8月	9月
石油・石炭、化学、プラ製品	22.2	▲10.3	1.9	2.9	3.3	0.5
輸送機械	14.1	▲44.6	52.3	21.3	2.4	10.6
汎・生産・業務用機械	13.7	▲8.7	▲3.2	▲0.9	▲4.0	2.4
電子デバイス、電気・情報通信	12.6	▲6.3	▲3.3	5.1	▲5.2	3.1
食料品・たばこ	12.4	▲2.4	—	0.8	0.2	—
鉱工業	100.0	▲14.4	5.1	4.7	0.0	3.4

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
 2. 7－9月期、9月はお速報値。速報値において化学は医薬品を除いたもの、食料品・たばこは公表されていない。
 3. 業種は内閣府にて分類。

2. 個人消費の動向

個人消費は持ち直している。なお、ヒアリングによれば、足下における感染者数増加による下振れ懸念が一部の業種で強まっている

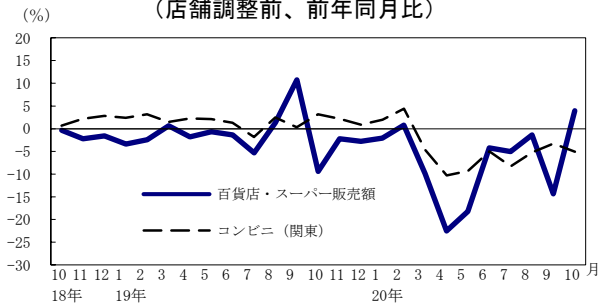
(1) 地域別消費総合指数 (RDE I (消費))

7-9月期は前期比8.7%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、4-6月期は前年同期比14.8%減、7-9月期は同7.1%減となり、減少幅が縮小している。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	2020年7-9月	2020年7月	8月	9月	10月
RDE I (消費*1)	8.7	▲0.4	2.8	1.8	—
百貨店・スーパー(*2)	▲7.1	▲5.1	▲1.4	▲14.3	3.9
コンビニ(*3)	▲5.7	▲8.3	▲5.2	▲3.3	▲5.1
乗用車(*4)	▲12.8	▲12.9	▲14.7	▲11.4	28.9
(季節調整値)(*4)	34.4	20.3	3.4	1.9	11.0

(備考) 1. 季節調整前(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

2020年10月は速報値。

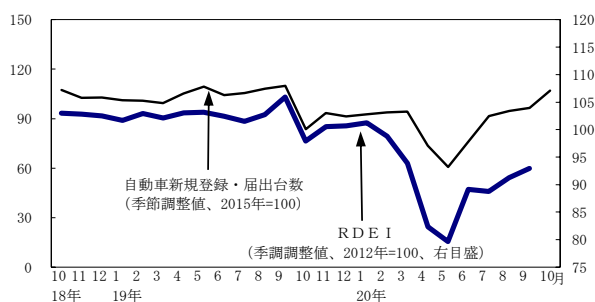
3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

コンビニは、経済産業省の関東(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡)の値。

2020年10月は速報値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

RDE I (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移

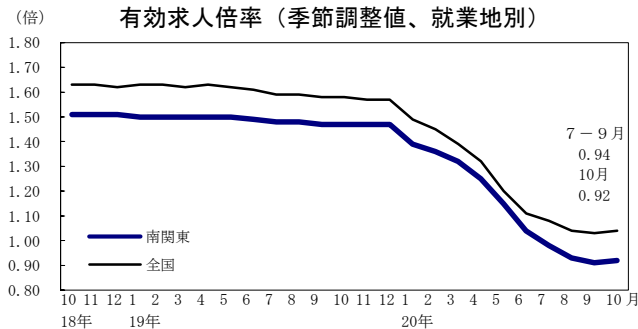


3. 雇用情勢

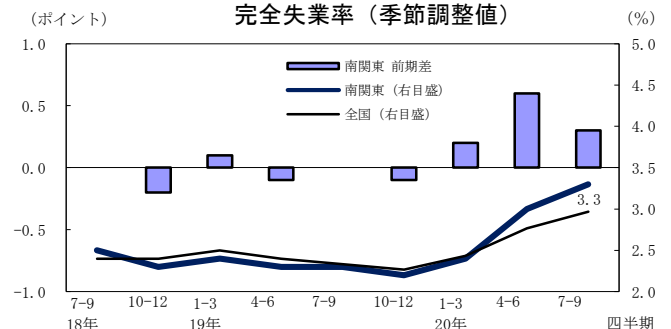
雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を上回っている。

有効求人倍率 (季節調整値、就業地別)



完全失業率 (季節調整値)



(13) 景気ウォッチャー調査（令和2年10月調査）景気判断理由の概要

4. 南関東

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

	分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連	□	・深夜の来客数、売上は伸び悩んでいるが、朝から夕方までは、ほぼ新型コロナウイルス以前に戻っている。特に、高齢客が増加している（コンビニ）。
		○	・Go To TravelやGo To Eatキャンペーンによる需要が寄与している（都市型ホテル）。
		▲	・今月の販売量は目標数字の約67%となり、やや悪い。3か月前と比べてもやや悪くなっている。新型コロナウイルス感染拡大防止のための外出自粛解除後は、それまで3～4か月動けなかった客が一斉に動き出したが、もう落ち着いてしまったようである（住宅販売会社）。
	企業 動向 関連	□	・当社は建設機械の部品を製造販売しているが、建機業界は一部のメーカーで前年並みの受注量に戻ってきている。前々年との比較では20%減であるが、今年上期に比べれば受注が戻っている（金属製品製造業）。
		○	・3か月前から比べると35%売上が増大している。自動車、産業輸送関係部品が在庫切れと聞いている（精密機械器具製造業）。
		▲	・民間工事案件が減少している。同業者も同じように案件がなくなっているとのことである。見積案件も少なくなっている（建設業）。
雇用 関連	□	・新卒採用においては、2022年卒業生向けのインターンシップやイベントが開催されているが、例年より学生の動きが早いようである。来年は新型コロナウイルスの影響で厳しくなると想定している学生が多い（民間職業紹介機関）。	
	○	・9月に比べて求人の動きが多少増えている。それに伴い、1社当たりの応募総数が減っている印象もある。前年の数字と比較しても、9月に比べてやや良くなっていると感じられる（求人情報誌制作会社）。	
その他の特徴 コメント		○：当社の売上構成のメインである婚礼、法事、法人宴会等の団体宴会は依然として厳しい状況ではあるが、10月1日以降はGo To Eatキャンペーンの兼ね合いで、レストランに関しては回復傾向にある。月内売上の同キャンペーン効果は、およそ5000万円程度である（高級レストラン）。 □：スーパーや半導体製造装置等、一部の業種の輸送は好調だが、企業間の一般貨物の荷動きは低調なため、業績が改善しない（輸送業）。	
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計 動向 関連	□	・2～3か月後は12～1月となり、元々旅行需要の少ない月である。海外旅行の状況は変わらないと思うが、国内では引き続きGo To Travelキャンペーンの影響があり、1月までは数字が見込める。また、修学旅行は旅行先や時期の変更等で1月までは数字が見込めるとも考えている（旅行代理店）。
		○	・東京都のGo To Travelキャンペーン開始に伴い、外出着などの需要に復調傾向がみられる。年末年始にかけて外出自粛へ逆戻りしなければ、現在よりは復調に期待できる（百貨店）。
	企業 動向 関連	□	・本格的な冬に向けて、新型コロナウイルスの感染再拡大があるかないかで様子が変わってくるため、今はまだ先が読めない（広告代理店）。
		▲	・出勤率低下の常態化によりオフィススペースの一部解約が続く状況にある。また、飲食テナントは新規の出店希望者が全く現れず、空きスペースが埋まる見通しが立たない（不動産業）。
	雇用 関連	□	・求職者数、求人数、就職者数の減少に歯止めが掛かっている感はあるが、いまだに新型コロナウイルス感染症収束が見えず、先行きが見通せない（職業安定所）。
その他の特徴 コメント		○：年末年始の繁忙期に向けた短期の人員依頼が増えている。インターネットショッピング関連のセールによる物流増のほか、セット組み増による物流加工作業の需要も増えている（人材派遣会社）。 ▲：今の予約状況から、年末の予約は期待薄である。年越しがこれからの1つの目安になる（一般レストラン）。	

(D I)

現状・先行き判断D I（南関東）の推移（季節調整値）

